

Vol.66

Vol.66 (2016年 春号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Column / 新任理事就任のごあいさつ	3
Best Practice and Competence / PM 事例・知識	6
PM Calendar / PM カレンダー	12
Fact Database / データベース	13
Editor's Note / 編集後記	17

Column / 新任理事就任のごあいさつ	3
教育国際化担当	井上 雅裕
企画、地域サービス担当	浦田 有佳里
地域サービス担当	木南 浩司
教育国際化担当	斉藤 学
ミッション、標準担当	鈴木 安而
企画、組織拡大担当	森田 公至
Best Practice and Competence / PM 事例・知識	6
◆部会紹介	
• ビジネスアナリシス研究会	PMI日本支部 ビジネスアナリシス研究会 代表 庄司 敏浩
• ソーシャルPM研究会	PMI日本支部 理事(PMコミュニティ活性化担当) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表 高橋 正憲
PM Calendar / PMカレンダー	12
• PMI日本支部関連セミナー等	
Fact Database / データベース	13
Editor's Note / 編集後記	17

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Column / 新任理事就任のごあいさつ



教育国際化担当
(前 教育委員会委員)

井上 雅裕 (いのうえ まさひろ)

芝浦工業大学
学長補佐、システム理工学部教授

新任理事の^{いのうえまさひろ}井上雅裕です。

私は2001年にPMPを取得し、2003年1月からPMI日本支部の企画委員会委員を3年間務めました。25年間の電機メーカー勤務を経て、2005年4月から芝浦工業大学教授として、プロジェクトマネジメント、システム工学の教育・研究を行っています。2005年6月からは、PMI日本支部教育委員会委員として、高等教育、中等教育へのプロジェクトマネジメントの導入を推進してきました。

これまで、PMI日本支部と大学等のアカデミアとの連携を行ってきました。PMI日本支部と日本工学教育協会との連携を行い、「プロジェクトマネジメントとPBL」のオーガナイズドセッションを企画・計画し、2012年に最初の連携セッションを芝浦工業大学で開催しました。ここで発表した講演論文を中心に、日本工学教育協会との連携で「プロジェクトマネジメント教育とPBL」論文特集号を企画し、2013年9月に発行しました。「プロジェクトマネジメントとPBL」のオーガナイズドセッションは、PMI日本支部と日本工学教育協会との連携で、継続して実施しており、2013年に新潟大学、2014年に広島大学、2015年に九州大学で開催しました。

また、2013年からは東南アジアの複数の工科大と国際PBL（プロジェクト実践教育）を企画、計画、実施するなど、大学教育の国際化を推進してきました。

PMIと工学教育協会、高等教育機関、中等教育機関の両方に軸足を置く、企業出身の教育者としての経験とネットワークを活かし、PMI日本支部、PMI本部、国内外の教育機関との相互連携を深め、PM教育研究の国際化、高度化に尽力する所存です。高等・中等教育機関でのプロジェクトマネジメントとPMに基礎におくPBL等のアクティブ・ラーニングの導入の推進、PMの素養を持ったグローバル人材の育成のための活動を進めます。



企画、地域サービス担当
(前 関西ランチ代表)

浦田 有佳里 (うらた ゆかり)

株式会社HS情報システムズ
システム業務改革課 専門役

2007年に関西で立ち上がったPM実践研究会への参加から本格的にPMI日本支部での活動を行ってきました。日本支部最初のランチとなった「関西ランチ」の立ち上げに関わり、関西ランチ運営委員会の委員長を2015年まで務めました。

その後3年間は、さらに日本支部の活動に深く関わるようになり、ミッション委員会活動を経て2016年度から新しく理事を拝命しました。

理事としての私の担当は、首都圏以外の地域へのプロジェクトマネジメントの普及を支援する「地域サービス委員会」と、今後PMIの戦略を実行していく「企画委員会」となっています。

地域サービス委員会の運営を通じては、首都圏と比べて情報が不足しPMP数も少ない全国各地域の活性化を進めます。また、地域のアクティブメンバーが活発に活動し、プロジェクトマネジメントの普及を進めて行けるよう支援を行います。プロジェクトマネジメントは多くの業種・業態・活動で必要なスキルです。地域の行政、学校、法人と共にプロジェクトマネジメントの価値を高める活動ができれば双方のメリットになると考えており、今後はこれら組織との協働を目指すとともに、地域在住・在勤のPMPや日本支部会員がより多くのメリットを享受できるよう貢献したいと考えています。

企画委員会では、3年間のミッション委員会での経験（中期計画の策定、施策実行のモニタリング、組織改編の検討など）を通じて得た知見を活かします。日本支部のミッションを遂行するためには、どのような活動を行っていけば良いか、それは上手く進んでいるのか、適切な支援策は無いかなど、細かなフォローをして行きたいと考えています。



地域サービス担当
(前 中部ランチ代表)

木南 浩司 (きなみ こうじ)

株式会社マネジメントソリューションズ 執行役員、中部・関西支社長



教育国際化担当
(前 教育委員会委員長)

斉藤 学 (さいとう まなぶ)

Skylight Consulting Inc,
シニアマネージャー

皆様、初めまして。この度、地域担当理事に任命されました木南と申します。皆様と共にPMI日本支部の発展と地域サービスの向上に貢献して参りたいと存じますのでどうぞ宜しくお願い致します。

さて、皆様の多大なるご協力の元、2015年にPMI日本支部2番目のランチとして中部ランチを設立することができました。同年11月に行いました設立記念セミナーには関係者の多大なるご支援のお蔭もあり100名超ものの方々にお越しいただき大変ご好評を得ました。仕事から、私は地域に根差したプロジェクトマネジメントを通じて地域活性化や地域の価値向上に貢献できないかと考えていたところに、中部ランチを設立するための活動に参加する機会をいただきました。地域の皆様と共に日本の発展を支えるその土地ならではの取り組みを発見して共有することは大きな喜びです。今後も産・官・学の垣根を超えて皆様とともに取り組み、そこで発見するものを共有・活用し、さらに成果が創出され、ますます地域が発展していく好循環を皆様と共に形成していきたいと思えます。

上記中部ランチの活動以外にも関西ランチや日本各地での活動ともお互いの良いところを取り入れて連携しつつ、PMI日本支部の活動全体として地域の垣根を超えてよい取り組みを循環・継承し、さらに成果の創出につながる「輪」を形成・強化できるよう皆様と共に目指していきたいと思えます。また、成果の創出につながる各種マネジメントにおけるエッセンスを利用者の立場に立って活用しやすい仕組みやあり方についても模索していくことで利用者目線より実践的なPMIブランドの価値向上に貢献したいと思えます。

本年より教育国際化担当理事として就任させていただきました斉藤です。

支部活動に関しては、これまで教育機関向けPM教育の啓発活動を中心に行っており、直近の5年間は教育委員会の委員長を務めさせていただきました。

国内外を問わず、今やプロジェクト活動は社会のさまざまな領域で実践され、政府機関や産業界のみならず、社会問題に取り組む非営利組織などでもその実践領域へ広がっております。また教育分野においてもここ10年ほどの流れとして、学生の主体性を重視する教育手法としてのプロジェクト型授業が多く現場にて取り入れられるようになりました。

そうした状況の中、支部としても「PMスキルは社会人の基礎素養である」という認識を教育分野に広めることにより、PM教育という枠組みを通じて産業界の実務者が早期から次世代人材の育成に携われる環境の整備が必要と感じており、その基礎づくりを今後行いたいと思っています。

主なアクションとしては、まずPMI本部やPMI教育財団(PMIEF)が持つ教育領域におけるリソース、ケーパビリティを調査し、グローバルでのPM教育トレンドに関する情報提供や、ナレッジ・コンテンツの紹介を関係者に行うことを考えています。

次にPM教育における支部としての将来ビジョンを明確にし、国内での動向を踏まえて対外的にオピニオンを発信するとともに、PM教育に関する大学等教育機関のニーズを定常的に吸い上げる仕組みを整備したいと考えています。将来的には、アカデミックスポンサーを中心とした支部主導の共同研究や複数の教育機関と提携したPM教育協働プロジェクトの実施も構想しています。

短期的にはなかなか実現が難しい目標もありますが、一歩ずつ着実に成果を残しつつ、国内におけるPMの認知度向上と支部活動の更なる充実、そして教育界の新しい挑戦をサポートできる受け皿組織への発展を目指して尽力しますのでご協力の程よろしくお願いたします。



ミッション、標準担当
(前 ミッション委員会委員)

鈴木 安而 (すずき やすじ)

PM アソシエーツ株式会社
代表取締役

初めまして、新任理事の鈴木安而(すずきやすじ)と申します。

まず自己紹介をさせていただきます。ビジネス上は「PM アソシエーツ株式会社」に所属し、「PMI登録教育プロバイダー」としてプロジェクトマネジメントや人材育成に関する教育・研修ビジネスを運営し、関係図書を7タイトルほど出版いたしております。人生においては、人との交流を最も大切にしており、誘われれば断れない性格で、カラオケ、飲み会、ゴルフ、アマチュア無線など硬軟何でもお付き合い可能です。

現在PMBOK®委員会など5つの部会に所属しておりますが、それとは別に「PMBOK®ガイド第4版および第5版日本語版」の翻訳・監訳リーダーを務めました。さらに翻訳・監訳の活動として「OPM3®基礎知識」、「プログラムマネジメント標準第2版」および最近では「PMBOK®ガイド第5版ソフトウェア拡張版」を担当いたしました。そして現在「実務家のためのビジネスアナリシス」の監訳を担当しております。

今回、理事として任命を受け「標準推進委員会(SPC)」を立上げることになりました。この委員会は、日本支部会員サービス強化のために、PMIが有する標準書や実務書を会員の皆様にできるだけ早く正確にお届けするように活動するための組織です。そして現存する英語の書籍や今後発表される予定の書籍について調査・研究し、体制を整えた上で翻訳・監訳し、質の良い日本語版を適宜発刊し、それを日本のPMコミュニティへ提供することがこの委員会に課せられた使命です。実際の活動は主に会員の皆様のボランティア活動に支えられながら邁進することになりますので、ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。ちなみに2016年から2017年にかけてはPMBOK®ガイドなどの標準類のバージョンアップが軒並み予定されております。これらについては、今後の調査に基づく優先順位に従い順次翻訳いたしますので、ぜひご希望やご意見をお寄せください。よろしく願い申し上げます。



企画、組織拡大担当
(前 ステークホルダー委員会委員)

森田 公至 (もりた こうじ)

日本アイ・ビー・エム株式会社
GTS事業本部金融インダストリー
&システムズ 担当部長

今年より新任理事となりました森田公至です。私は企画委員会、組織拡大委員会、行事担当として2年間活動していきます。私は個人会員の皆さんと同じように2005年に支部会員になり、ステークホルダー委員会で今まで活動してきました。最近ではミッション委員会や組織拡大委員会などへも参画し、PMI日本支部が会員の皆様、法人スポンサーの皆様にとって価値のある組織になるよう考えてまいりました。

私は支部会員増強、法人スポンサーの拡大することが現在のステークホルダーの皆様の価値が高まる方法だと考え、以下の3つを視点で役割を担っていきます。

(1) サービスの充実

ステークホルダー委員会の活動を通じて、組織拡大委員会との融合を加速させて個人会員への特典見直しやサービス拡充を図っていききたいと思います。また楽しく、気軽にボランティア参加できるよう推進していきます。

(2) PM認知度の向上

プログラムマネージメント、ポートフォリオマネージメントなどを含めて経営層へのアプローチを強化して支部会員の個人々へ価値が高まるようPMの存在価値を訴求し、普及に貢献していきます。

(3) PM組織間の連携

関連団体とは継続して、新たにアカデミックスポンサーにフォーカスし、将来に向けたPMのパイプラインとなるセグメントヘリーチし連携強化します。

個人会員、法人スポンサー、R.E.P.の方々そして各地域にサービスの差が無いようにしていく事が最重要であると考えています。PMI日本支部が提供するサービスを更に改善させて、会員の皆様に今まで以上の付加価値をお届けできるよう一層の努力をしていく所存です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

部会紹介

■ ビジネスアナリシス研究会

ビジネスアナリシス研究会 代表 庄司 敏浩

■ はじめに

ビジネスアナリシス研究会は、2015年4月に（当時は準備プロジェクトとして）立ち上げた新しい研究会です。ここでは、本研究会の活動内容と本研究会の研究対象である「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」について、簡単に紹介させていただきます。

■ 部会設立の背景

PMIの2014年調査報告から、要求関連アクティビティが不十分であることがプロジェクト課題であることが判明していました。そのため、プロジェクトを成功に導くために、ビジネスアナリシスが重要であるという認識が高まっており、PMI本部でもPMI-PBAの資格認定を始めたことに続き、「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」というプラクティス・ガイドを発行しています。

ビジネスアナリシスの活動は日本でもまだ十分に普及しているとは言いがたく、プロジェクトの成功確率を高めるためにも、ビジネスアナリシスとプロジェクトマネジメントを連携させていく必要があります。そのためにPMI日本支部でプロジェクトのためのビジネスアナリシス活動について理解を持つ人材を増やし、PMI日本支部としてプロジェクトのためのビジネスアナリシス活動の普及に努めることが必要と考えました。

既存の研究会でもこのような研究活動を展開するところがあると思いますが、関心を持つ人を広く集めて活動していくためには、ビジネスアナリシスに特化した研究会を設立し、PMI日本支部として力を入れていくことをアピールすることが有効と考え、ビジネスアナリシス研究会を立ち上げました。

■ 2015年の活動内容

2015年には研究会準備プロジェクトを立ち上げ、以下の活動を行ってきました。

- － 「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」の輪読による研究
- － 「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」の紹介資料の作成
- － 「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」に関するセミナーの準備
（2016年2月27日に第1回セミナー実施）
- － 「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」の翻訳
（翻訳・出版委員会との協働。今年度内に日本語版が出版できる見込み）



研究会の様子

■ビジネスアナリシス研究会

■2016年の活動計画

昨年、メンバーの中では「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」に関する基本的な理解ができましたので、本年度はいくつか掘り下げて研究するテーマを洗い出し、ワーキング・グループに分けて研究活動を進めて行く予定です。

現在、以下の二つのテーマで研究を行っています。

●モデリング技法の適用

どのような場面で、どのようなモデリング技法を活用できるか

●ビジネスアナリストの役割

ビジネスアナリストがプロジェクトの成功のために果たすべき役割は何か。PMを中心としたステークホルダーとどのようにコラボレーションしたらよいか。



研究会の様子

■「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」の簡単な紹介

最後に、本研究会が研究対象としている「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」の内容について簡単にご紹介します。

書籍の目次構成は、次のとおりです。

第1章 イントロダクション

第2章 ニーズ評価

第3章 ビジネスアナリシス計画

第4章 要求の引き出しと分析

第5章 トレーサビリティとモニタリング

第6章 ソリューション評価

上記の目次構成にのっとり、この書籍では以下のような内容が記載されています。

- ビジネスアナリシス（以下、「BA」）に関する実践的議論の投げかけ
- BA活動とプログラム／プロジェクトとの関連性の定義
- BA活動の重要性の議論
- BA活動の具体例の提供
- プロジェクトライフサイクルとBA活動実施のタイミングとタイプの関連性
- プログラムとプロジェクト・パフォーマンスを改善するために、ビジネスアナリストが他のチームと協業すべき領域（特にPMとビジネスアナリストの協働ポイント）
- BA活動におけるタスクや知識、スキルの総整理（2013年PMI研究の成果まとめ）

本研究会は常時メンバーを募集していますので、関心のある方はPMI事務局へお問い合わせください。

■「ソーシャル・プロジェクト」って何？ ～ソーシャルPM手法開発の紹介～

PMI日本支部 理事（PMコミュニティ活性化担当）
ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表
高橋 正憲

■はじめに

「ソーシャル・プロジェクト」—— 聞きなれないと思われる方もいらっしゃるでしょう。

2011年3月11日の東日本大震災から5年になりました。私たちは復興支援活動を通じて、NPOや自治体のみならずとお付き合いしている間に、災害復興のみならず「社会的課題を解決するためのプロジェクト」が数多く存在することを知りました。そのようなプロジェクトを「ソーシャル・プロジェクト」と呼ぶことにしました。

それらを円滑に遂行するために適切なマネジメント手法の開発・導入が必要であることがわかりました。そこには一般的なITプロジェクトとは異なるアプローチが必要です。

PMI日本支部が持つプロジェクトマネジメントの知識・経験をソーシャル・プロジェクトに生かせないだろうか、そのための手法を開発して世に問うことを目指してソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会を立ち上げました。防災対策やまちづくりプロジェクトなど3年余の体験を経て知見を集積し、全6回シリーズの予定でワークショップを開いています。

ワークショップには、実際にソーシャル活動を実施している専門家と、マネジメント面でそれを支えるプロマネの両方の立場の方々が、具体的なテーマについて一緒に対応策を検討し、マネジメント手法のブラッシュアップを進めています。

1. 「ソーシャル・プロジェクト」とは

「ソーシャル・プロジェクトとは、社会的課題の解決を目的とする活動」と定義します。

社会的課題の分野は、環境、教育、地域活性化・まちづくり、防災、福祉などがあり、ステークホルダーも、政府、地方自治体、民間団体、企業、受益者などが存在します。ソー

シャル・プロジェクトの範囲は広く、行政などの国家プロジェクトから地元の町内会や家庭内の行事などもソーシャル・プロジェクトととらえることが出来ます。複数の活動が絡み合っ
て進められることもあり、PMIの用語ではプログラムの形態になるものもありますが、一般の方になじみやすいプロジェクトという呼び方をします。

ソーシャル・プロジェクトは以下のような特徴を有しており、全体利益を最適化できるように解決しながら進めていく必要があります。

- 多様なニーズがあり焦点が絞れず前に進まない
- 目標やスコープがあいまいで計画がまとまらず走り出せない
- 思いのまま進めるが成果を出せない、または成果が評価しにくい
- 制度的な規制などにより計画変更が多い
- マネジメント体制が弱く進捗が把握できない

より良い成果を目指すには、繰り返してニーズを掘り起こしてスコープを見直しながらKGI/KPIを見極めて進めていくこととなります。

2. ソーシャルPM実践ワークショップの開催

社会的課題はたいへん広い分野に及びますが、当面「ソーシャルPM研究会」では復興支援、防災対策、地域活性化、人材育成を中心にして、それらの課題を解決するためのプロジェクトマネジメントの手法を研究しています。

企業の中のITや製品開発のように戦略計画に基づいてトップダウンで進められるプロジェクトとは異なり、ソーシャル活動のプロジェクトは課題が存在する現場から始まります。したがってマネジメントのアプローチも異なります。私たちは2014年に「デザイン思考」のアプローチを採用することを決めて、その後のソーシャルPMの枠組みの開発を進めて

■「ソーシャル・プロジェクト」って何？ ～ソーシャルPM手法開発の紹介～

います。そのあたりの経緯については、以下を参照してください。

- ・ニューズレター2014年夏号 13ページ、
「部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会 (その1)」
https://www.PMI-japan.org/newsletter/pdf/vol59_140625.pdf

社会的課題解決のプロジェクトに「デザイン思考」のアプローチを適用して「ソーシャル・デザイン思考」というベース・フレームワークを構築し、その上に5つのコンポーネントを立てています。各コンポーネントの開発を進めるにあたってワークショップを開催し、手法を紹介して皆様のご意見を吸い上げて検証・改善を進めています。

現時点で出来ている「ソーシャルPMフレームワーク」を「図1研修体系」に示しました。

6回シリーズのワークショップは表1に示す計画で進めています。すでに第1回、第2回は終了していますが、第3回目以降も過去の内容を含めたものとしていますので、途中の回からの参加も可能です。ソーシャル活動の新しいアプローチにご関心のある方はぜひご参加ください。

図1 ソーシャルPM研修体系

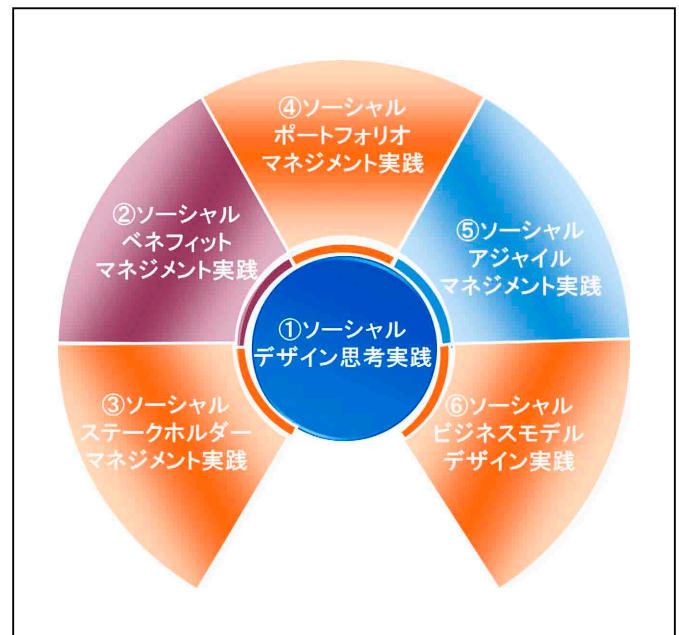


表1 ソーシャルPM実践ワークショップ

研修タイトル	研修の狙い	実施予定(含実績)
ソーシャル・デザイン思考実践	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題の本質を捉える ・独創的なアイデアを創出し、ソリューションを提示する 	2015年12月
ソーシャル・ベネフィットマネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの立上げ時点で、ミッション/ビジョン、戦略計画、プログラム・ベネフィットの関係性を明確化する 	2016年1月
ソーシャル・ステークホルダーマネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なステークホルダーの期待をどうマネジメントするか、識別、影響力の発揮方法を理解する 	2016年3月
ソーシャル・ポートフォリオマネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・創出したアイデア、ソリューション、実現施策の投資価値を最適化する 	2016年5月
ソーシャル・アジャイルマネジメント実践	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考から創出したアイデアを短期間でサービス/成果物として構築し、社会・市場からフィードバックを得る手法を理解する 	2016年8月
ソーシャル・ビジネスモデルデザイン実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルソリューションをビジネスとして成立させて持続可能性を考慮してビジネスモデルをデザインする手法を理解する 	2016年10月

Best Practice and Competence / PM事例・知識

■「ソーシャル・プロジェクト」って何? ~ソーシャルPM手法開発の紹介~

3. 第1回「ソーシャル・デザイン思考実践」実施報告

これまでのワークショップの一端をご紹介します。

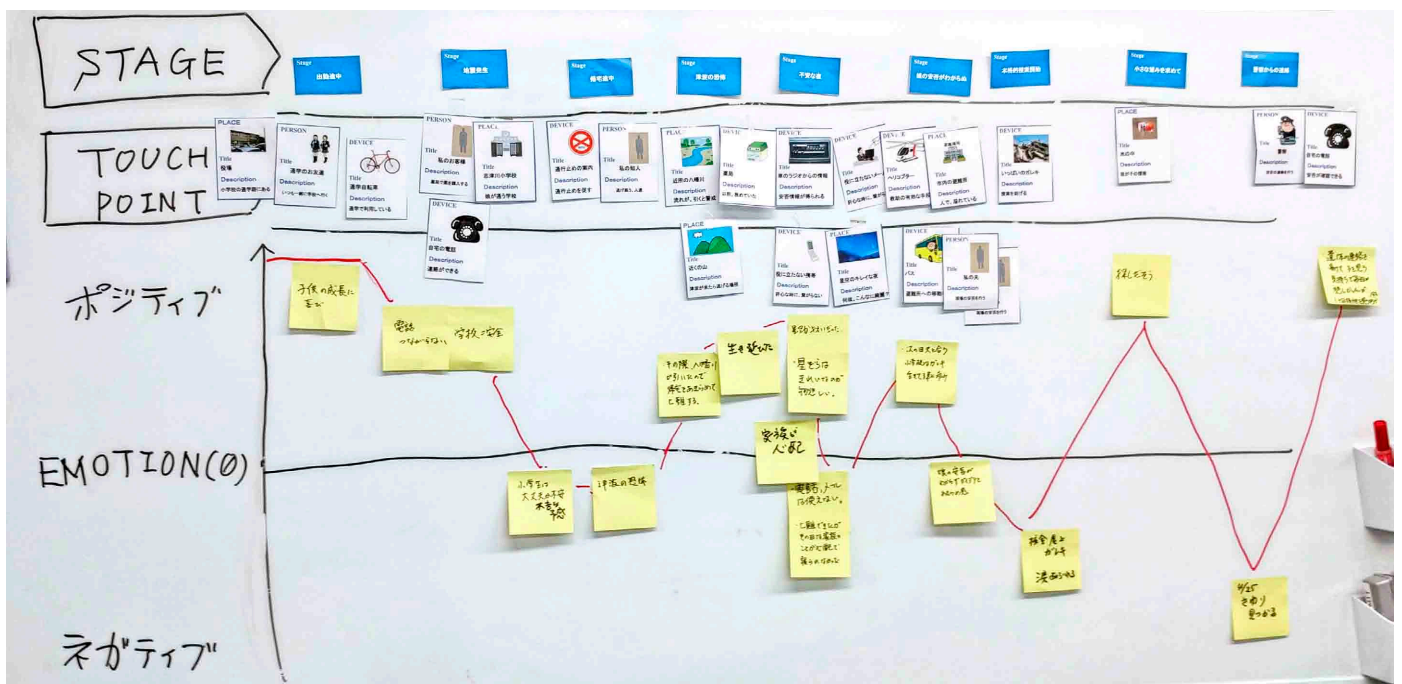
第1回目「ソーシャル・デザイン思考実践」では、ソーシャル・プロジェクトの多様なニーズとスコープ、解決策策定とプロトタイプング実践を紹介しました。

全体の流れは、1チーム5人程度で、メンバーの多様性を生かせるように意見を出し合います。

- 手順1：ペルソナを読み気づいたことを付箋に書き出す
- 手順2：各チームで内容を共有する

- 手順3：カスタマー・ジャーニーマップを作成する
- 手順4：ペルソナの視点で顧客体験を見直す
- 手順5：枠ごとのアイデアを出してゆく
- 手順6：アナロジー手法を活用してアイデアを出す
- 手順7：意味のある経験のリストを当てはめる
- 手順8：アイデアを評価する
- 手順9：コンセプトを定義する

(当日は時間の関係で手順8、9は割愛しました)



■「ソーシャル・プロジェクト」って何? ～ソーシャルPM手法開発の紹介～

4. 成果発表

6つのチーム別に成果であるゴールとアイデアの発表を行いました。同じテーマに取り組みながらもチームの構成員の多様性からいろいろな結果が出てきたのは興味深いことでした。

参加者からいただいた事後アンケートでは、全員が「参考になった」と回答されており、極めて有効なワークショップであったことがわかります。

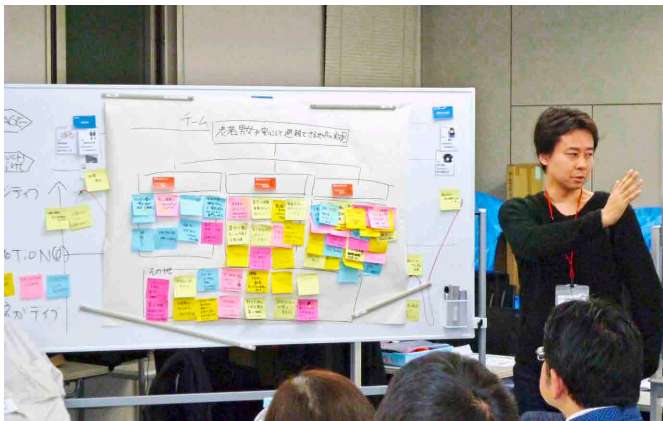
以下、いくつかコメントを紹介します。

- ソーシャル課題を解決するうえでのデザイン思考の全体像を教えていただけたところが大変参考になりました。
- デザイン思考を体験することで「なるほど、こうやってや

るのか」と感じることができました。

- NPOの職員なので、まさに社会的課題に取り組んでいます。特にボランティアの方と関わることが多いので、フレームワークに沿って進めていくことの重要性を認識しました。
- 日常の混沌とした問題解決に立ち向かう際の武器となります。
- 将来的にソーシャル課題のプロジェクトを立ち上げたいと考えているので、これを機会にもっと勉強したいと思いました。

みなさんがソーシャル課題に関心を持ち、デザイン思考という新しいアプローチに積極的に取り組んで行こうという意欲が感じられました。



.....
 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会では同好の士を募っています。関心がある方はPMI日本支部のホームページからご応募ください。

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/social_pm.php

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中】

■ PMI日本支部関連セミナー

● 4月度 月例セミナー

- 変革を実現するビジネスアナリシス
～変革をドライブする組織能力の構築の手法～
- 日時：4月22日(金)
 - 時間：19:00～21:00
 - 場所：アクセス渋谷フォーラム
 - 2PDU、ITC実践力ポイント2時間

● PMBOK® セミナー 第5版対応

- 日時：5月28日(土)・29日(日)
- 時間：9:30～18:50 9:30～17:40
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 14PDU、ITC実践力ポイント14時間

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI日本フォーラム2016 (予定)

- 日時：2016年7月9日(土)・10日(日)
- 場所：学術総合センター (東京・神保町)

● PMI Japan Festa 2016 (予定)

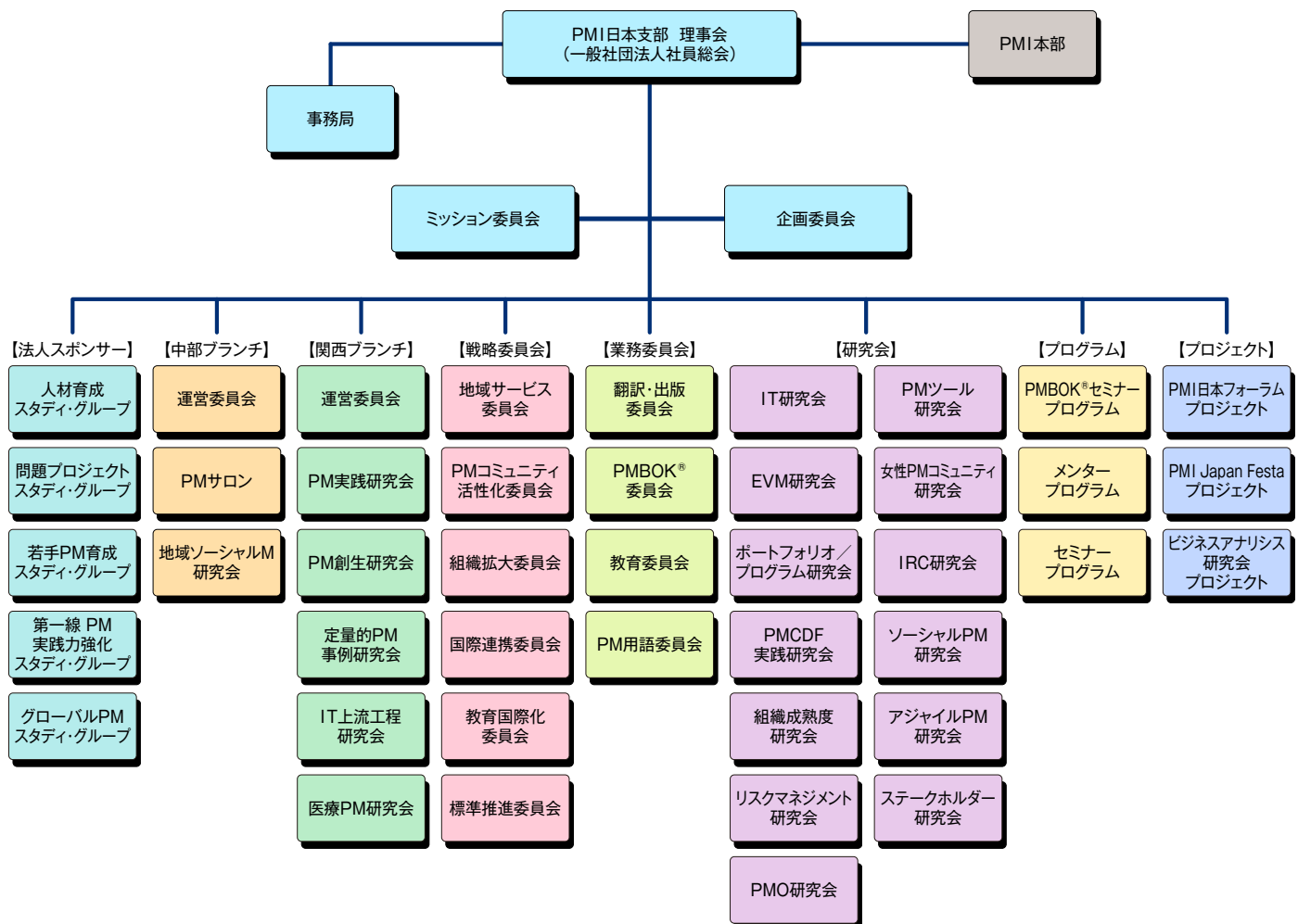
- 日時：2016年11月5日(土)・6日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス
協生館藤原洋記念ホール (横浜市)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(<https://www.pmi-japan.org/event/>)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2016年3月現在)



■ 理事一覧 (2016年3月現在)

会 長 : 奥 澤 薫 (KOLABO)
 副会長 : 片 江 有 利 (株式会社プロシード)
 副会長 : 端 山 毅 (株式会社NTTデータ ユニバーシティ)

(以下、五十音順)

理 事 (PMコミュニティ活性化担当) : 麻 生 重 樹 (日本電気株式会社)
 理 事 (教育国際化担当) : 井 上 雅 裕 (芝浦工業大学)
 理 事 (企画、地域サービス担当) : 浦 田 有 佳 里 (株式会社HS情報システムズ)
 理 事 (地域サービス担当) : 木 南 浩 司 (株式会社マネジメントソリューションズ)

理事 (教育国際化担当)	: 齊藤 学 (Skylight Consulting Inc.)
理事 (国際連携担当)	: 杉村 宗泰 (日本マイクロソフト株式会社)
理事 (ミッション、標準担当)	: 鈴木 安而 (PMアソシエーツ株式会社)
理事 (ミッション、組織拡大担当)	: 武上 弥尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (PMコミュニティ活性化担当)	: 高橋 正憲 (PMプロ有限会社)
理事 (PMコミュニティ活性化担当)	: 竹内 正興 (一般財団法人国際開発センター)
理事 (PMコミュニティ活性化担当)	: 当麻 哲哉 (慶應義塾大学大学院)
理事 (組織拡大担当)	: 徳永 幹彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理事 (標準担当)	: 中嶋 秀隆 (プラネット株式会社)
理事 (国際連携担当)	: 福本 伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (財政担当)	: 三嶋 良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (企画、組織拡大担当)	: 森田 公至 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (国際連携、標準担当)	: 除村 健俊 (株式会社リコー)
監事	: 神庭 弘年 (神庭PM研究所)
監事	: 平石 謙治 (ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
監事	: 渡辺 善子 (株式会社日本政策金融公庫 社外取締役)

■最新の会員・資格者情報 (2016年1月31日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI 本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
482,547人	3,265人	712,515人	32,878人	4人	6人	3人	15人	1人	2人	87人

■行政スポンサー (2016年3月現在)

- ・三重県 桑名市

■法人スポンサー 一覧 (103社、順不同、2016年3月現在)

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社プロシード
- ・株式会社インテック
- ・キヤノンITソリューションズ株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・株式会社ジェーエムエーシステムズ
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTT データ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・プラネット株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社

- 日本ヒューレット・パッカー株式会社
- 株式会社アイ・ティ・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフトエンジニアリング株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジーズ株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニー株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社JSOL
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップランダムアンドアイ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGSTジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウェア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK株式会社
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- アクシスインターナショナル株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- 損保ジャパン日本興亜システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティ・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ

- MS & ADシステムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- 第一生命保険株式会社
- リコージャパン株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (34教育機関、登録順、2016年3月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 今号では、2016年度に就任した新任理事6名からのご挨拶を掲載しました。
- 昨年、準備プロジェクトとして発足し、2016年4月からは正式に研究会に移行する予定の「ビジネスアナリシス研究会」の活動について、庄司敏浩代表から紹介いただきました。
- 東日本大震災以降、PMI日本支部が持つプロジェクトマネジメントの知識・経験をソーシャル・プロジェクトに生かすべく積極的に活動している「ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会」。防災対策やまちづくりプロジェクトなどでの知見を集積して、昨年末から6回シリーズでワークショップを開催しています。その活動内容を高橋正憲代表から紹介いただきました。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

事務局では、7月9日・10日に開催する「PMI日本フォーラム」に向けて企画・準備に追われています。また、2015年版アニュアル・レポートの編集作業も佳境を迎え、4月半ばには皆さまに目にさせていただくべく追い込みをかけています。

ニューズレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

今年もPMI日本支部をどうぞよろしくお願い致します。

PMI日本支部ニューズレター Vol.66 2016年3月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
 〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
 TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833
 E-mail：info@pmi-japan.org
 ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)